

第10回 東金市外三市町清掃組合新ごみ処理施設処理方式検討委員会 会議録

<開催日時>

平成31年2月28日(木)午後2時から午後2時30分まで

<開催場所>

東金市外三市町清掃組合4階大会議室

<出席者>

○新ごみ処理施設処理方式検討委員会

荒井委員長

出口副委員長

※藤原委員は職務上の都合により欠席

○理事者

東金市外三市町清掃組合

鹿間管理者（東金市長）

大矢副管理者（九十九里町長）

松下副管理者（山武市長）

※金坂副管理者は職務上の都合により欠席

○事務局

東金市外三市町清掃組合

二井事務局長、小川総務課長、片岡計画係長、根本主査、日暮副主査、谷川主任主事、

北田主事

○パシフィックコンサルタンツ株式会社

中尾技師、篠木技師

<会議内容>

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 答申書提出
4. 答申に係る説明
5. 管理者挨拶
6. 閉会

<概要>

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 答申書提出

新ごみ処理施設における最適な処理方式の検討及び検討結果について、取りまとめた答申書を荒井委員長より鹿間管理者へ手交した。

#### 4. 答申に係る説明

荒井委員長より理事者に向けて、評価基準の策定及び処理方式の選定過程などを纏めた答申書の内容について説明を実施した。

初めに、評価基準の策定につき、一次評価では「ごみ質への対応性」、「想定施設規模以上の建設実績の有無」、「直近10年間の受注実績の有無」、「副生成物の課題」の4点を評価項目として捉え、かつ、国の施策や近年の技術動向等を勘案して総合的に判断することとした旨を説明した。また、二次評価では「施設整備基本構想」において提言された整備基本方針から評価項目を導出し、定量・定性評価を実施した旨を説明した。

次に、一次評価において「ごみ処理施設整備の計画・設計要領2017改訂版」に掲載のある12方式について、直近10年間の竣工もしくは受注の実績がない方式、新ごみ処理施設の施設規模以上の建設実績がない方式、本組合のごみ質への対応等において配慮が必要となる処理方式の5方式を除く、7方式を検討対象とする処理方式として選定した点を説明した。

続く二次評価において、7種の処理方式について、プラントメーカー及び副生成物の処分業者へのヒアリング結果、他団体視察、文献調査より、定性評価及び定量評価による加点評価を行い、1位が100点満点中85.9点の評価点を得点したストーカ式、2位が69.1点を得点した流動床式、3位が66.9点を得点したごみメタン化+ごみ焼却施設、4位が53.3点を得点したシャフト式、5位が50.8点を得点したガス化流動床式、6位が49.6点を得点したストーカ式+灰溶融施設、7位が46.3点を得点した流動床式+灰溶融施設という順となり、処理方式検討委員会では、当組合での新ごみ処理施設にふさわしい処理方式として、第1位のストーカ式を選定した旨の説明を行った。

#### 5. 管理者挨拶

#### 6. 閉会

## 答申書本編

## 答申書手交の様子（写真）①

## 答申書手交の様子（写真）②